

Library Mate

これからの図書館

図書館事務部課長 八幡 隆文

私は昨年(1994)の4月に図書館事務部の課長に就任いたしました。思いおこせば、昭和48年に本学の短期大学の学生係を初めとして、以後20年の間法人事務部の財務に配属となり、そのほとんどを教育とは直接関係のない会計や資産管理等の部署にいました。したがって、直接学生と相対する仕事は20年ぶりになります。

図書館ではおよそ3年ほど前より業務の機械化に取り組んでおりましたが、ようやく昨年の6月から具体的に機械化が進み始めました。図書館の機械化で一番に意図するところは、資料を利用者へいかに素早く提供でき、利用者が自分の意図する資料をいかに早く検索できるかということです。しかしながら、これが一番大変なことなのです。

今年初めておこなわれた3年生への図書館ガイダンスで、『図書館が変わりました』というキャッチコピーに気がついた方が多いかと思えます。今のところ、『変わりつつあります』といった方がよいかも知れません。今年の4月、大学図書館に3台の検索用端末を設置しました。ある学生に「探している資料がありません。確か1年生の時に1度借りた事があるのに、おかしいです」と言われたことがありました。そうなんです。まだ、昨年度新規購入分の書誌データしか入っていません。図書館の機械化は、機械を設置しただけでは駄目なのです。蔵書の書誌データが機械に入力されていないと、検索も



機械による貸出も出来ないのです。そういう意味では、図書館の機械化はまだこれからです。

図書館にはこの他に機械化の一貫として、2台のCD-ROM読み取り用端末の設置、図書館案内用端末(LEAD)の設置、さらに外部データベースの利用できる端末の設置をおこないました。

これからの図書館は、これらの機械の設置により、インターネットへの接続等でさらに多くのメディアにアクセスをし、比較的容易に欲しい資料を手に入れる事ができるようになることと思います。

しかしながら、図書館サービスの原点は、『Human Relation』人対人だと思えます。機械化によって省力化をし、出来た時間を人でなければ出来ない色々なサービスに向けること、そして

“誰にもやさしい(優・易)図書館”

“誰にも同じサービスの図書館”

を心がけていきたいと考えます。

さらなるステップへ、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

生活文化を考える

生活文化学科教授 鍵和田 務

昨年(2022)の5月、日本家政学会服飾史・服飾美学部会から、平成6年度第1回研究会で「生活文化論へのアプローチ2——生活文化論を考える」というテーマでシンポジウムを実施しますので、実践女子大学家政学部からパネリスト1名を出してほしいとの依頼がありました。その頃私は、生活文化学科開設の準備に忙殺されていましたが、この機会に「生活文化とは何か」というテーマについて、体系的に考える良いチャンスであり、また他大学の先生方の発表や討論にも参加できると考えて承諾しました。

平成6年7月16日(土)、会場の実践女子大学本館3階362室には、私および司会の先生を含めて6名が中央の席に座り、会場は参加者で満席の盛況でした。短大で服飾美学を担当する教授は、「生活のすべてが文化であるので、対象が問題であるのではなく、切口、アプローチの態度が問題である。国際化と日本の伝統文化、とくに生活の美に重点を置き、民芸論や茶道など日本文化の特性を講ずべきである」、また食物学専攻の或る短大教授は、「食文化を民俗学、生活学、歴史学から総合的に研究すべきである」、さらに或る女子大学の服飾美学の教授は、「人間・生活・文化の三角構造のなかで、自然的・文化的の両面から総合的に考察すべきである」など、いろいろな意見が提示され、参加者からも質問がありました。一つの見解にまとめることは不可能な状況でした。それだけ「生活文化とは何か」の問に対して十人十色、現状では生活文化の概念は極めて不明確でした。

そこで、私は「生活文化」という言葉の解釈から始めようと考えて、平凡社の大百科事典(1985)を調べましたが、生活環境、生活史、生活様式などの項目はみられましたが、生活文化の項目はありませんでした。また、広辞苑(1991)や国語辞典などにも文化生活や文化住宅などの用語はみられましたが、生活文化の用語はありませんでした。

そこで私は「生活文化の概念について、生活を文化の視点から考察・研究する」という視点に立って、生活と文化を分けて考察し、最終的に総合することになりました。

生活(Life)について体系的に研究を推進させたのは、今和次郎を主宰として創設された日本生活学会です。この学会では2つの立場、生活の科学を目指して数量的に生活を分析する生活構造論の方向と、生活を量的に分析するのではなく、質的に築き上げて行く生活設計論(今和次郎らの造形論)の方向とがあります。前者は生活経済論、生活時間論、生活環境論を3つの柱とし、後者は外面的には生活空間論(住い、道具、工芸など)と内面的には文化の問題を研究テーマとしています。生活学は、まず身近な日常生活から問題をとらえて、整理し学的に体系化する方法をとっています。

つぎに文化(Kultur)については、少し昔にさかのぼりますが、新カント学派の哲学者ウンデルバント(1848-1915)の「文化科学」(Kultur-Wissenschaft)のことを思い出します。彼は価値哲学の立場に立って、文化を自然科学の立場からではなく、文化科学の立場から捉えているのに興味をもちました。文化現象を個性的、歴史的、そして1回性(Einmaligkeit)さらに文化的価値(Kultur-Wert)として考察しています。文化科学は、法則の概念ではなく、規範(カテゴリー)または類型(パターン)の概念を通して把握すべきであるという考え方には肯定できます。生活文化の研究については、文化人類学の立場も重要であり、ライフスタイルの類型や比較研究には欠くことの出来ない分野です。

以上、生活文化についての私見を述べてきましたが、ここで平成7年4月1日に開設された実践女子大学生活科学部の生活文化学科についてふれておきます。これからの女子大学にとって、社会的ニーズに対応できる学科は何かという課題に対して、私ども関係者は2年余にわたって研究した結果、21世紀の生活文化の在り方を社会に提案し、それを地域社会を中心に実現してゆく女性のスペシャリスト育成を目標とする生活文化学科であるとの結論に達しました。生活文化学科は3つの専攻領域を設定し、専攻と就職との関連についても検討してきました。

『重力の虹』と映画

英文学科教授 植野達郎

1994年の一年間、スタンフォード大学滞在中に日本ではなかなか味わえない体験をした中で、忘れえぬものの一つとして大学のメディアセンターで見た映画について述べてみよう。アメリカに渡る前年に、トマス・ピンチョンの『重力の虹』の翻訳を終えたのだが、気になっていたことがいくつかあった。その一つはこの作品に数多く登場する映画を見たいという思いである。というのも日本ではなかなか入手できない無声映画の作品、特にフリッツ・ラング監督の作品が『重力の虹』の中で重要なイメージとして使われているからである。彼の作品で日本で比較的容易に手にはいるのは1926年に作られた『メトロポリス』であろう。この映画を持つインパクトは現在でも些かも失われていない。たとえばジョージ・ルーカスが『スター・ウォーズ』を創るときに十数回見たというエピソードからも、そのインパクトの強さがうかがいしれるのではないだろうか。

『重力の虹』に導かれてフリッツ・ラングの他の作品を見るようになったのも、単に翻訳するさいに必要なからというだけでなく、映画それ自体の面白さに引きずり込まれたのである。『M』『ニーベルンゲン』『外套と短剣』『マンハント』『死刑執行人もまた死す』など、見ることができたものは、それこそ手あたり次第に見たのだが、見たいと思っていたが果たせないでいた作品が『ドクター・マブゼ』と『月世界の女』だった。この二つの作品がスタンフォード大学のメディア・センターに所蔵されていることがわかったときの喜びは、ニュー・オリンズのとある古本屋で、サンフランシスコ、テキサス大学周辺、ミシシッピ大学周辺の何軒もの古本屋を探したが見つけることができずにいた、ある絶版になっている本を見つけたときの喜びと変わらないもので、それこそ胸がふるえるような思いを味わったことを今でも鮮明に思い出

す。特に『月世界の女』は特殊撮影の見事さに引きずり込まれると同時に、その最後の場面で男と女を月に残したまま飛び立つロケットと、『重力の虹』の終わりで、Vロケットがゴットフリートを乗せたまま飛ぶ場面とが重なり、強烈な印象となって脳裏に焼き付いたのである。

『重力の虹』の翻訳を終えて、気になっていたことの一つが解消したのであるが、もう一つ気になっていたことがある。それは登場人物の名前に関するもので、日本人少尉として'Morituri'という名前の人物が登場する。この少尉の名前「モリツリ」が日本名としては不自然であるという印象をぬぐい去ることができずにいた。それがあるとき Morituri という映画に出くわした。マーロン・ブランド、ユル・ブリナーが出演する反ナチのドイツ人が捕らわれたイギリス人を助けるという内容のもので、1965年にリリースされている。1973年に出版された『重力の虹』が第二次世界大戦のドイツのVロケットをめぐる話が展開されていることを考えると、日本人が登場する Morituri という映画のタイトルを借用しているのではないかという想いを強くいだかせる。特に『重力の虹』ではさまざまな映画が引き合いに出されているので、日本人の名前としては不自然であると思われるモリツリは、この映画からとられていると断言するのはないだろうか。

百科全書的な作品、言い換えれば一つのジャンルに納めることが難しい作品である『重力の虹』は歴史小説として、あるいはSFとして読むことができるが、章の区切りとして映画のパフォーマンス(送り穴)が用いられていることを考えると、小説自体が映画ではないかと思える。つまり映画という枠組みを持った小説が『重力の虹』であり、その『動力の虹』という映画の中でさまざまな映画が自在に用いられている作品なのではあるまいか。

パソコン検索端末導入!!

パソコン端末により、本学所蔵の図書の検索ができるようになりました。検索端末は、大学に3台（今年度中に2台増設予定）、短大に3台が設置されています。その内2台は、タッチパネルでキーボードを使わずに操作できます。

現在のところ、和図書・洋図書のデータの入力作業を行っています。入力されたデータは、

大学は1994年度以降に購入されたもの、短大は全蔵書の約3分の2にあたるものです。

今後は、全蔵書のデータを遡及入力して、貸出手続き等の機械化を行っていく予定です。短大は今年度中には図書（研究室を除く）の入力が完了する予定です。

検索画面

向田

あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ	あ	や	ー	
い	き												

詳細画面

資料名	和図書	所蔵中	貸出許可
	貸出なし	予約なし	

赤い部分は検索でヒットした言葉を表します

分類記号1 審者記号 副本記号 910.268 M.27H	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">書名 向田邦子のこころと仕事</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td>副書名 父を恋ふる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻次名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シリーズ名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>著者名1 平原日出夫著</td> <td></td> </tr> <tr> <td>著者名2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>著者名3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版地 東京</td> <td>国名コード JA</td> </tr> <tr> <td>出版者 小学館</td> <td>言語コード JPN</td> </tr> <tr> <td>出版年月 1994年</td> <td>受入年月日 1994年03月31日</td> </tr> <tr> <td>注記1 年譜・向田邦子の作品とその時代: p233-239</td> <td></td> </tr> <tr> <td>注記2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ページ 239p</td> <td>ISBN 4093671035</td> </tr> <tr> <td>サイズ 20cm</td> <td>定価 ¥ 1748</td> </tr> </table>	書名 向田邦子のこころと仕事		副書名 父を恋ふる		巻次名		シリーズ名		著者名1 平原日出夫著		著者名2		著者名3		出版地 東京	国名コード JA	出版者 小学館	言語コード JPN	出版年月 1994年	受入年月日 1994年03月31日	注記1 年譜・向田邦子の作品とその時代: p233-239		注記2		ページ 239p	ISBN 4093671035	サイズ 20cm	定価 ¥ 1748
書名 向田邦子のこころと仕事																													
副書名 父を恋ふる																													
巻次名																													
シリーズ名																													
著者名1 平原日出夫著																													
著者名2																													
著者名3																													
出版地 東京	国名コード JA																												
出版者 小学館	言語コード JPN																												
出版年月 1994年	受入年月日 1994年03月31日																												
注記1 年譜・向田邦子の作品とその時代: p233-239																													
注記2																													
ページ 239p	ISBN 4093671035																												
サイズ 20cm	定価 ¥ 1748																												

保管場所 大学図書館	配架場所 書架1階
------------	-----------

■ 詳細なし	■ 洋名一覧	■ 一覧へ戻る
--------	--------	---------

パソコン検索端末のメリット

- 短大の蔵書を大学の端末で、大学の蔵書を短大の端末で検索することができます。
- 書名、著者名の一部しか分からなくても検索できます。
- 発注中の図書も見ることができます。（予約することもできます）
- 主題から検索できます。
- ヨミ、表記形（漢字）どちらからでもできます。
- 和書・洋書の区別なく検索できます。

CD-ROMが見られるようになりました!!

利用申込方法

利用時間	月～金 9:00-17:30 土 9:00-12:00
申込方法	CD-ROM一覧リストから見たいCD-ROMを選んで、[AV資料カード]に必要な事項を記入の上、カウンターへ申し込んで下さい。

CD-ROM 所蔵一覧表

No	タイトル	機種	分野	コメント
1	J-BISC(国立国会図書館)	DOS	目録	国会図書館の所蔵資料(69-)が検索可能
2	雑誌記事索引(国立国会図書館)	DOS	目録	学術雑誌の記事索引(90-)
3	AURORA(青山学院大学図書館)	DOS	目録	青山学院大学図書館の蔵書目録
4	AIKEN-CD(日本総合愛育研究所)	DOS	目録	子ども家庭福祉・母子保険に関する文献データベース
5	Grolier multimedia encyclopedia 1995	WIN	参考	マルチメディア百科事典。画像データが豊富
6	Microsoft Encarta '95	WIN	参考	マルチメディア百科事典。画像データが豊富
7	Compton's interactive encyclopedia	WIN	参考	マルチメディア百科事典。画像データが豊富
8	World atlas	WIN	参考	旧ソ連解体後の世界地図。世界の主要国と都市を映像、音声で紹介
9	Redshift : the multimedia planetarium	WIN	天文	天体シミュレーション・ソフト
10	Cameron's art & music	WIN	美術	芸術家達による千点以上の作品を紹介
11	Lenard the inventor	WIN	美術	ダ・ヴィンチの生涯、作品を映像・音楽で紹介
12	Renaissance master 1 (Electronic library of art)	WIN	美術	ルネサンス期の巨匠達の美術作品群を紹介
13	Renaissance master 2 (Electronic library of art)	WIN	美術	ルネサンス期の巨匠達の美術作品群を紹介
14	エルミタージュ美術館 1 (世界の美術館)	WIN	美術	所蔵作品総数270万点(うち絵画15000)の世界最大の美術館の代表的作品を美しい音楽とナレーション入りの解説で紹介
15	エルミタージュ美術館 2 (世界の美術館)	WIN	美術	
16	ウフィーツィ美術館 1 (世界の美術館)	WIN	美術	元はメディチ家の公館で、ルネサンス期の作品を所蔵する美術館を紹介
17	Microsoft Cinemania '95	WIN	参考	約2万本の映画の情報を映像、音楽で紹介
18	Twain's world : Mark Twain, his work, his life, his times	WIN	文学	マーク・トウェインの世界。全作品収録。ナレーション入りの音楽、絵、写真、映画収録

* WIN…WINDOWS対応 DOS…DOS対応

— CD-ROM とは!?

コンピュータ用のデジタルデータを記録できる光学式ディスクで、フロッピーディスクの数十倍の記憶量を持ち、大量複製も容易である。そのため、画像・音など大量のデータを扱うマルチメディアで多く使われている。CD-ROM=マルチメディアといってもよい側面もある。

“Lead” 登場!!

4月より大学図書館では、利用案内や各サービスについての説明を、パソコン画面でお知らせする、図書館インフォメーションシステム“Lead”を設置しました。

パソコンといっても操作はとても簡単です。マウスを使って自分の知りたい情報の画面を選ぶだけで、次々と解説画面が展開してゆきます。

—“Lead”は、こんな時に使うと便利—

「貸出手続きはどうするの?」「学生証を忘れてしまった時はどうするの?」「ビデオが見たいときの申込方法は?」など、貸出カウンターでの手続き方法やレファレンスカウンターのサービス内容を知りたい時(参照:図1, 2)、自分の読みたいジャンルの本が、図書館のどこにあるのか知りたい時(参照:図3)などに、それぞれの画面を選択することで、情報を得ることができます。

その他にも、本の探し方が分からないときには目録の見方を解説している画面(参照:図4)もあります。

また、「図書館からのお知らせ」や、「メッセージBOX(ブラウジングコーナーに設置)」に入った、みなさんからの質問や意見に対する回答も、“Lead”を使っておこなっています。

人にいちいち聞く煩わしさを感じずに、図書館の様々な最新情報を得ることができます。一度試しに使ってみて下さい。もっと図書館が身近でおもしろい所になると思います。

図 1

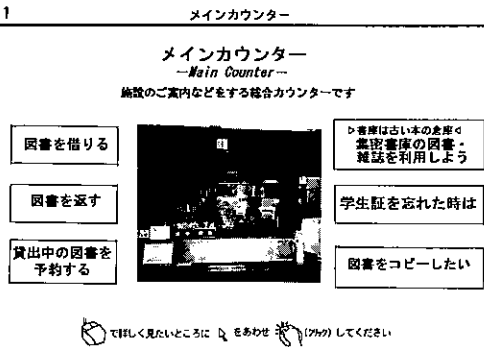


図 2



図 3

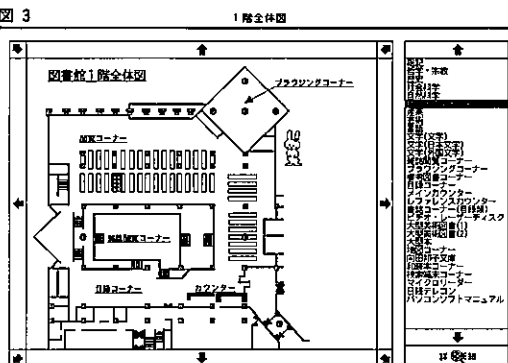
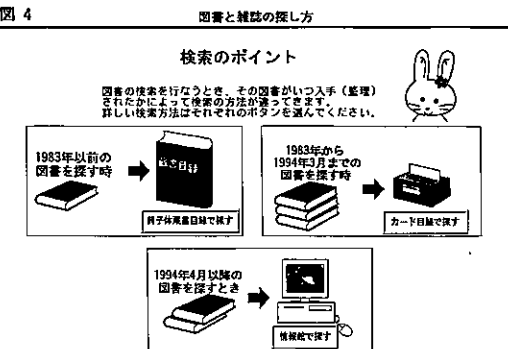


図 4



短期大学図書館の遡及入力について

短期大学図書館では、昨年10月に学術情報センターとオンライン接続をし、目録システムへの入力を開始したことは、前号でお知らせしたとおりです。そして、蔵書のすべてを入力しデータベース化して、貸出の機械化・端末での資料の検索を可能にするための作業（遡及入力）を日常業務と並行し、日々続けています。

春休み期間中の2・3月は、図書館所蔵の全図書にバーコードラベルを貼り、学術情報センターの目録システムへの所蔵登録作業を行

ないました。入力にあたったのは、司書コース受講の学生アルバイト（20名）の方々です。この間に、和図書63,000冊のうち、25,000件（冊）を登録することができました。また、5月からはアルバイトによる入力も再開し、6月末現在の登録数は50,000件となり、図書については、年度内に入力完了の予定です。検索用の端末（3台）も7月中に設置の予定です。念願の貸出システムの機械化についても来年度には実現される見通しです。

『図書館と私』

国文学科4年 橋本尚美

卒業論文を作成しなければならない私にとって、今年はいままで以上に図書館を活用しなければなりません。しかし、実際には、四年間も利用していながら、図書館のサービスを活用し始めたのはごく最近のことに思います。

思えば1年生の頃は、試験及びレポート作成時のみの利用が主で、その他はほとんど足を運びませんでした。というよりは、使い方がわからず、敬遠していたのかもしれませんが。

2年生以降になると、「演習」という発表形式の授業がある為、必然的に足は運びはしたものの、冊子・カード目録の区別がわからず、カード目録になれば、そのまま諦めて帰ってしまったこともありました。また、本学の図書館にない図書・雑誌論文等が、レファレンスカウンターに頼めば他機関を通して

手に入れられることなども知りませんでした。そのため随分と損をしていたように思います。

このように、全く図書館の使い方がわからなかった私にとって、非常に有り難く感じたサービスが「図書館見学ツアー」でした。この見学会では、図書館内を司書の方々が案内してくださって資料の調べ方、検索の仕方、CD-ROM・外部データベース等の基礎的な利用法だけでなく、日頃、見学できない特殊資料等も見ることができ、非常に有効的なものとなりました。普段、図書館の使い方がわかっていそうでわかっていないだけに、このような見学会はぜひ継続して行って欲しいです。

私自身もまだ図書館を使いこなしていないところがあるので、もっとフルに活用し、卒業論文等の作成に役立てていきたいと思えます。

※※※いんふお-め-しょん※※※

1995年6月～1995年12月

大学図書館

開館時間

月～金 9:00～18:00 土 9:00～16:00

試験期 9:00～18:45(7/1～7/25の月～金)

夏休み期間 9:00～16:00

休館日

書庫整理日：月末の火曜日

夏休み期間：7/29・31 8/10～20

8・9月の土曜日

試験期の貸出

7/3(月)～7/22(土) 3日間貸出

夏休み特別貸出

期間：7/24(月)～9/14(木)

冊数：大学院生・4年生 10冊

1～3年生・短大生 } 5冊
聴講生

返却日：9/27(木)～29(金)

貸出日	返却日
7/24～28	→ 9/27
8/1～31	→ 9/28
9/1～14	→ 9/29

卒論貸出

対象：博士論文作成者・修士論文作成者・
卒業論文作成者

受付期間：文学部・家政学部とも

10/2(月)～11/9(木)

貸出期間：貸出日から1ヶ月間

冊数：10冊

ブラウジングコーナーにメッセージBOX
を設置しました。図書館に対するご意見ご要望
をお待ちしています。“Lead”のQ & Aコー
ナーで回答しています。

短期大学図書館

開館時間

月～金 9:00～17:30 (今年度より30分延長)

土 9:00～16:00

試験期 9:00～18:00 6/29～7/25の(月～金)

夏休み期間 9:00～16:00

休館日

書庫整理日：月末の水曜日

夏休み期間：7/31 8/5～21 7～9月の

(月)・(土)

試験期の貸出

6/26(月)～7/22(土) 3日間貸出

夏休み特別貸出

期間：7/24(月)～9/14(木)

冊数：図書 5冊

返却日：9/28(木)

※雑誌/カセットテープ/ビデオについては
掲示でお知らせします。

編集後記

本年4月1日付で、平野恵子さんが大学図書
館へ配属となりました。初々しい新人です。図
書館にさわやかな風を吹き込んでくれるでしょ
う。コンピュータ化が始まって、大学図書館で
は一年を経過し、ようやくエンド・ユーザーの
眼に見える形でのサービスを提供できるよう
になりました。果たして、求める資料を探し当て
ることは、できましたか？

Library Mate 第14号 1995年7月

発行所 実践女子大学図書館

東京都日野市大坂上4-1-1

実践女子短期大学図書館

東京都日野市神明1-13-1

発行責任者 三隅治雄